第二講 〈論説〉選択肢型　音楽論・音楽社会論

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ここに一つの楽譜があります。一九一二（明治四五）年に創刊された『月刊楽譜』という雑誌に掲載されているもので、《夏季衛生唱歌》というタイトルがつけられています。タイトルもちょっと「?」という感じなのですが、歌詞をみるとその疑問符はさらに大きくなり、A思わず笑い出してしまいそうになります。一番は、

さみだれふりて空くらく　学びの窓はうちしめり
うめの実きばむ時はきぬ　かびのはえるはこの時ぞ

などと、ややおごそかに始まるのですが、最後に「かびのはえるは」というのが出てくるあたりからだんだんと、夏だからお腹をこわさないように気をつけましょうという話に変わってきて、歌詞が進むにつれて具体性が増してきます。

かにやいかたこえびいわし　あげものかひるゐ（貝類）ところてん
ささげにかぼちゃ、もち、だんご　いづれもこなれぬものなるぞ

という具合に消化の悪い食品名が並べられたかと思うと、

すべてのみくひしたものが　あとでわるいと気付いたら
ゆびをさし入れはきだして　あとをしほゆ（塩湯）でよくあらへ

などという実践的アドバイス（?）まで出てきて、全部で何と二〇番まで続きます。

こういうものが一流の音楽雑誌に堂々と掲載されているのを目にすると、われわれはつい、明治の終わり頃の日本の西洋音楽はやはりまだ未熟で幼稚だった、などと思ってしまいがちです。あるいは、これを作った人は何か心得違いをしていて、純粋な「芸術」であるはずの音楽を違った目的に使っていたかのように思うかもしれません。

しかし実は、当時の資料を調べれば調べるほど、この種のものは次々とみつかります。そうなってくると、こういうものを文化が未熟だったなどと片づけてしまうわけにはいかなくなってきます。実際、この時代の音楽文化はべつに未熟であったわけで

も幼稚であったわけでもありません。この時代にはこの時代の音楽観があり、今のわれわれのロジックとは違う原理にしたがって動いていたのであって、その論理にしたがうなら、こういうものはきわめてまともな音楽のあり方だったのです。それがあたかもおかしなものであるかのように思ってしまうとすればそれは、今われわれが自分たちのもっている固定観念を通してこの時代の音楽をみてしまっているための誤解にほかなりません。

われわれは音楽というと、ほとんど反射的に「芸術」の一ジャンルだと考えてしまいます。われわれが《夏季衛生唱歌》を未熟なものだと思ってしまうときには無意識のうちにそういう前提が作用しており、どうみても「芸術性」の乏しい B「かにやいかたこ」などという歌詞をみると、「芸術」としては完成度の低いものだと思ってしまうわけです。

しかし、音楽を美術や演劇などと並ぶ「芸術」のサブジャンルとして位置づけ、作曲家によって生み出された美的対象としての作品を純粋に鑑賞することこそ、その本来のあり方であるとするような思想は、実は典型的に西洋近代型のものの見方なのです。そういう見方に基づくならば、C《夏季衛生唱歌》式のものは、美的価値が乏しいものだということになりますし、唱歌を、たかがものの食べ方の教育に用いるなどということは、「芸術」の本来のあり方に反した邪道な振る舞いだということにもなるかもしれません。しかし、そういう風に考えるのは、西洋の芸術音楽の発想にどっぷりとつかってしまったわれわれの感覚にほかなりません。

明治になって西洋文化との接触の中で成立した明治政府が、西洋音楽の導入をはかり「唱歌」なるものを編み出した経緯やそこでの状況をあらためて見直してみるならば、そこでの音楽が「芸術性」などとは何の関わりもない、国民国家形成の中での「国民づくり」のためのツールとして位置づけられていたことがわかってきて、一見 D浮き世離れした無垢な存在に思われていた唱歌が背負わされている政治性が明らかになってきます。そのことは、われわれが、音楽と言えばほとんど条件反射的に「芸術」というカテゴリーに押し込める習性を身につけてしまった結果、視野から消えてしまっていた、音楽が現実の政治や経済に直接に関わっていた局面を照らし出してくれることになるでしょう。

しかし、それだけではありません。一見、浮き世を離れたところにあると思われる唱歌などの音楽も、実は近代的な国民国家形成のプログラムの中に組み込まれていたのだという話は、もちろん日本の近代の文化を考える上で重要なことではありますが、何でもこのような図式に押し込めば話が解決するというものでもありません。政府が何を目論(もくろ)んでいたとしても、いろいろな人々

がいろいろな立場から参与する現実の文化の展開の中では、E「想定外」のことが起こり、思いもしなかった方向に向かってゆくことだってあるでしょう。時代の変化の中で別の解釈を施されて、違った意味合いを与えられたり別のコンテクストで使われたりするようになることもあるでしょう。明治政府が考えたような「国民づくり」のビジョン自体は、もはや過去のものになってしまっているとしても、唱歌の孕(はら)んでいた様々な要素は、その後の変化の中で、F換骨奪胎(かんこつだったい)されながら、どっこいしぶとく生き延びています。文化というものは、継承と断絶とのはざまの、つながっているようないないような、微妙な空間をさまよいながら形作られてゆくものです。唱歌やその周辺にある「唱歌的なるもの」をめぐるそのような動きに注目しながら明治以後の文化のうつりゆきをもう一度捉(とら)え返してみたいのです。

（渡辺裕『歌う国民』中央公論新社。ただし、本文に一部省略がある。）

問１　傍線部Ａ「思わず笑い出してしまいそうになります」とあるが、なぜか。最も適切なものを一つ選びなさい。

１　唱歌に対し現代人が抱く一般的なイメージを裏切るような語句が歌詞に登場するから。
２　おごそかな歌い出しから軽快な曲調に変わっていく展開に現代人は慣れていないから。
３　歌詞の内容が家庭での食事に絞られていくので、学校という環境に似つかわしくないから。
４　児童や生徒が学校で習い覚える歌であるにもかかわらず、おごそかな響きで始まるから。

問２　傍線部Ｂ「『かにゃいかたこ』などという歌詞をみると、『芸術』としては完成度の低いものだと思ってしまう」とあるが、なぜそう「思ってしまう」のか。最も適切なものを一つ選びなさい。

１　庶民の生活文化に属する「かにゃいかたこ」は、一流の音楽雑誌に掲載されるにはふさわしくない表現であると考えられているから。

２　芸術は美を追求するものであり、「かにゃいかたこ」という日常の食べ物は美とは無縁の世界に属するものと考えられているから。

３「かにゃいかたこ」は日本固有の生活文化に根ざすものであり、西洋近代の文化を代表する音楽とは無縁であると考えられているから。

４「かにゃいかたこ」はグロテスクなイメージを喚起するがゆえに、美を追求する唱歌の形式にはふさわしくないと考えられているから。

問３　傍線部Ｃ「《夏季衛生唱歌》式のもの」の説明として、最も適切なものを一つ選びなさい。

１　純粋芸術である唱歌の本筋を行くもの

２　純粋芸術とは異なる目的のために学校現場で生み出されたもの

３　純粋芸術でありつつ教育的意図を含むもの

４　純粋芸術をめざすのではなく、教育のために生み出されたもの

問４　傍線部Ｄ「浮き世離れした無垢な存在に思われていた唱歌が背負わされている政治性」とはどのようなものか。最も適切なものを一つ選びなさい。

１　かつて純粋な近代的芸術をめざして民間のイニシアティブで開発された唱歌が、その後次第に政府の政策に利用されるようになったこと。

２　子供たちの教育という純粋な目標を掲げて登場してきた唱歌が、美術や演劇など芸術のサブジャンルに位置づけられるようになったこと。

３　世俗の塵にまみれることのない、美しい音楽世界と思われることの多い唱歌が、かつては国民意識を育成する道具として開発されたこと。

４　芸術性と政治性とが不可分の関係にあった時代に、唱歌は美の追求と国民意識の育成とを同時に達成すべく開発されたものであったこと。

問５　傍線部Ｅ「『想定外』のことが起こり、思いもしなかった方向に向かってゆくことだってあるでしょう」とあるが、「思いもしなかった方向に向かってゆくこと」を具体的に表した例として適切**でない**ものを一つ選びなさい。

１　戦前につくられた「校歌」には皇国史観の色合いを帯びた歌詞が登場したが、それらの多くは戦後になって問題となり、歌詞の一部を改変したり、問題のある部分は歌わなくしたりするなどの措置を経て、今に歌い継がれている。

２　「儀式唱歌」の代表ともいうべき「仰げば尊し」が近年復活の兆しを見せているが、この動きを支えているのは、もはや歌詞に歌われている「師の恩に報いる」感情ではなく、楽曲が回顧感情に強烈に訴えるところにある。

３　「地理唱歌」と呼ばれるものには、「鉄道唱歌」のように全国の駅名を覚えさせるものと、各県の地理の知識を身につけさせるものとがあるが、いずれも長大な歌詞をもち、国土に関する膨大な情報を送り続けている。

４　唱歌の変種にあたる「県歌」の中で抜群の人気を誇るものに長野県の「信濃の国」があるが、楽曲としての完成度の高さに加え、この曲が振り付けされ、踊られることによって広まったところに、人気の秘密が隠されている。

問6　傍線部F「換骨奪胎されながら」を言い換えたものとして、最も適切なものを一つ選びなさい。

1　表面は大きく変化しながらも、真髄にあたるものは保たれながら
2　褒め称えられていたものが、みくびられるようになりながら
3　後世の者の手が入り、当初の意図とは異なるものになりながら
4　困難に立ち向かうなかで、原形をとどめないほど変化しながら

問7　本文の内容と合致し**ない**ものを一つ選びなさい。

1　美とは無縁なものを歌詞の中に見いだすと、現代の私たちは作品の芸術的価値が低いと判断しがちであるが、それは私たちが音楽に対して抱く固定観念がそうさせている。
2　現代の私たちは芸術作品に接する際、それらの作品を美的対象と捉えるのに何の疑問も抱かないが、そうした態度は近代の始まりの時期に国策によって根付いたものである。
3　現代の私たちにとって唱歌はなじみ深いものではあるが、唱歌の捉え方は時代とともに大きく変化しており、それが生み出された時代背景さえも私たちの記憶には残っていない。
4　近代的な産物である唱歌の歴史を表面的に捉えるだけでなく、歴史の背景に見え隠れする微細な変化が現代の私たちにどう影響しているかを掘り起こすことは価値がある。

第二講　知識モノ解説

文学史・筆者紹介

●筆者　渡辺　裕＝わたなべ　ひろし（一九五三～）千葉県生まれ。東京大学文学部美学芸術学専修過程卒。同大学院博士課程単位取得退学。東大教授。著書『聴衆の誕生―ポスト・モダン時代の音楽文化』は、サントリー学芸賞を受賞。「聴衆の『ポスト・モダン』？」はセンター試験でも出題された。本書『歌う国民』は芸術選奨文部科学大臣賞受賞

語句

心得違い＝こころえちがい→勘違い。本人が正しいと思ってしたことが実はよいとは認められないということ

邪道＝じゃどう→本来あるべき姿から外れたあり方。対義語は「正道（せいどう）」

経緯＝けいい→いきさつ。事情や理由

無垢＝むく→けがれなく純粋なこと

浮き世＝うきよ→もともとは「憂き世」で思うままにならない辛いこの世のこと。一般的には現実のこの世のこと

復習問題　第二講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）楽フから作曲家の意図を探る　①府　②附　③符　④普　⑤譜

（イ）科学雑誌に論文が掲サイされる　①再　②才　③載　④裁　⑤栽

（ウ）この議論の展開には疑問フが付く　①符　②譜　③負　④附　⑤歩

（エ）表現が未熟で幼チだと指摘する　①治　②知　③智　④致　⑤稚

（オ）趣味で音楽カン賞に出かける　①感　②鑑　③艦　④勧　⑤干

（カ）事件のケイ緯を詳細に説明する　①敬　②系　③経　④係　⑤警

（キ）小学校からショウ歌が聞こえる　①小　②唱　③逍　④賞　⑤称

（ク）原曲をカン骨奪胎して編曲する　①管　②監　③間　④喚　⑤換

（ケ）音楽的な伝統を継ショウする　①証　②昇　③召　④承　⑤証

（コ）異文化とのセッ触から生まれる　①設　②説　③接　④節　⑤摂

第二講　模範解答

問1　1
問2　2
問3　4
問4　3
問5　3
問6　3
問7　2

復習問題　第二講　模範解答

（ア）⑤　（イ）③　（ウ）①　（エ）⑤　（オ）②
（カ）③　（キ）②　（ク）⑤　（ケ）④　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）楽譜　（イ）掲載　（ウ）疑問符　（エ）幼稚　（オ）鑑賞
（カ）経緯　（キ）唱歌　（ク）換骨奪胎　（ケ）継承　（コ）接触